

1. 単元名 打って、守って、散岐Tボール（ボール運動「Tボール」）

2. 授業づくりの構想

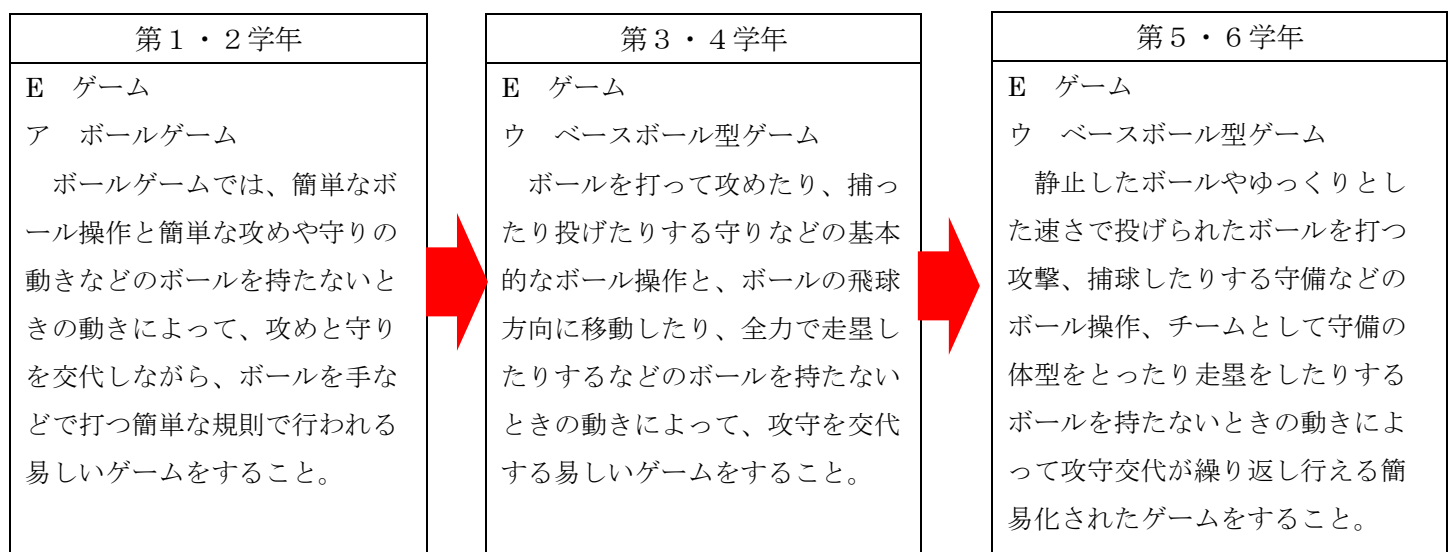
(1) 運動のもつ特性

- 「打つ」、「投げる」、「走る」の3つの要素で構成され、バット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻守を規則的に交代し合い、一定の回数内で相手チームより多くの得点を競い合う運動である。
- 自分がアウトにならずに生き残るためにはどこに打ったらよいかを考えたり、味方が進塁して点を取るためにはどの方向に打ったらよいかを判断したりすることが求められるため、チームで作戦を立てたり、協力する喜びを感じることができる運動である。
- 一人ひとりの攻撃の機会が保障され、運動経験や技量に関わらず主役になる楽しさを味わうことができる。
- 走者が速いか、守備側の共同作業が速いかを、特定の塁上で競い合う運動である。

(2) 児童の実態

- 本学級は7人と少数であるが、進んで体育に取り組み、休み時間には外で体を動かして遊んでいる児童が多い。地域のスポーツクラブに所属している児童はいないが、最近ではサッカーをする姿がよく見られている。運動に対して得意と感じている児童が多く、大方の児童が体育を好きと感じている。
- 児童は遊びでのドッジボールを通してボールを投げる、捕る経験はしているが、小さなボールを捕る経験をしている児童は少ない。野球が好きな児童1人が休憩中に野球をしたり、放課後に他学年の友達と野球をして遊んだりしている。
- 学習に応じて、めあてを設定し、チーム内で作戦を立てて練習し、実行する経験をしてきているが、まだまだ経験が少ないのが実態である。

(3) 運動（学習内容）の系統性



(4) 単元の目標

【知識及び技能】

ベースボール型の行い方を知ると共に、打つ、捕る、投げるなどのボール操作と得点を取ったり防いだりする動きによって、易しいゲームをすることができる。

【思考力・判断力・表現力等】

規則を工夫し、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができる。

【学びに向かう力・人間性】

運動に進んで取り組み、ルールを守り合って運動したり、場や用具の安全に気を配ったりすることができる。

(5) 学びへの働きかけ（指導の意図）

- 技術の獲得が目的ではなく、ゲームの面白さ、仲間との関わり方、競争課題を達成するために仲間と協力し合うことが大切であることを伝える。
- バット操作やボール操作の技術習得のために、バッティング練習、キャッチボールをドリルゲームとして取り入れる。
- 走塁については、①1塁とホームのみから始め、児童の実態によって、徐々に②1塁、3塁、ホーム、③1塁、2塁、3塁、ホームへと移行していく。
- 守備については、内野と外野にアウトゾーン（フラフープ）を置いておき、そこに児童が集まり一列になり、「アウト」と言って全員が座ったらアウトにする形式をとるが、アウトゾーン（フラフープ）については、児童の実態に応じて弾力的に変更していく。
- 個人目標だけでなく、チーム目標を立て、作戦ボードで作戦を立てながら取組ませる。

(6) 単元の流れと評価の計画

	1	2	3	4	5	6	7（本時）	8
主なねらい	学習の進め方を知ろう	ボールを打とう	ボールを取って、みんなで守ろう	選んだ方向に向かって打とう	守備の位置を見て、ねらった方向に打とう	チームで作戦を考えてゲームをしよう。	作戦を工夫してゲームをしよう。	学習の成果を確かめよう
核となる学習内容	・オリエンテーション ・試しのゲーム	バッティングゲーム	キャッチボール バッティングゲーム	キャッチボール バッティングゲーム	キャッチボール バッティングゲーム			Tボール大会
学習活動・わかる・できる・ためす	・オリエンテーション ・準備・片付けの仕方の確認 ・きまりの確認 ・試しの簡単なゲーム	・場と用具の準備 ・本時の学習の流れとめあての確認 ・全体練習 バッティング 投げる、捕る ・バッティングゲーム① ・チームミーティング ・学習のまとめ ・場と用具の片づけ	・場と用具の準備 ・本時の学習の流れとめあての確認 ・チーム練習 キャッチボール 守備練習 ・バッティングゲーム② ・チームミーティング ・学習のまとめ ・場と用具の片づけ	・場と用具の準備 ・本時の学習の流れとめあての確認 ・全体練習 キャッチボール バッティング ・ミニゲーム ・チームミーティング ・学習のまとめ ・場と用具の片づけ	・場と用具の準備 ・本時の学習の流れとめあての確認 ・チーム練習 キャッチボール バッティング ・ミニゲーム ・チームミーティング ・学習のまとめ ・場と用具の片づけ	・場と用具の準備 ・本時の学習の流れとめあての確認 ・チーム練習 キャッチボール バッティング 守備 ・ゲーム① ・チームミーティング ・学習のまとめ ・場と用具の片づけ	・場と用具の準備 ・本時の学習の流れとめあての確認 ・チーム練習 キャッチボール バッティング 守備 ・ゲーム② ・チームミーティング ・学習のまとめ ・場と用具の片づけ	・場と用具の準備 ・本時の学習の流れとめあての確認 ・Tボール大会 ・学習のまとめ ・場と用具の片づけ
評価（知・態）	①							②
（思考・判断・表現）				①	①	②	②	
（態度）		①	②					

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に取り組む態度
具体的な評価基準	①ボールを打って攻めることができる。 ②飛んできたボールを捕球・送球したり、運んだりして守ることができる。	①Tボールのゲームの行い方を知り、プレー上の規則を工夫している。 ②チームの特徴に合った攻め方や守り方を考えて作戦を立てている。	① 友達と協力して用具の準備や片付けをしたり、進んで運動に取り組もうとしたりしている。 ②規則を守り、友達と励まし合って練習やゲームをしようとしたり、勝敗の結果を受け入れようとしたりしている。

3 本時の学習（7／8）

（1）目標

- 作戦を工夫してゲームをしよう。【思考力・判断力・表現力等】

（2）準備 Tボール台（1）、バット（3）、作戦ボード（2）

（3）展開

学びの段階	学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点・支援★評価【観点】（方法）
ひらく わかる 挑戦する ふりかえる	児童のつぶやき 教え合い・言葉かけ 核となる言葉かけ 1 準備運動をする。 場と用具の準備をする。 2 前時の課題を振り返る。 3 本時の学習の流れとめあてを確認する。 作戦を工夫してゲームをしよう。 4 チーム練習を行う。 ・キャッチボール ・バッティング ・守備練習 5 ゲーム①を行う。 6 チームミーティング 7 ゲーム②を行う。 8 学習のまとめをする。 場と用具の片づけ オーバーハンドで上手く投げられない場合は近くの仲間に中継すると早くアウトにできそうだよ。 ボールを投げるのが難しくアウトにする までに時間がかかりそうだな。 できるだけ得点が入らないためにはどのように守ればいいのか。 ボールの運び方を決めたら早くアウトに できるかもしれないな。 相手チームが守っていないところをねらって打つといいんじゃないかな。 できるだけ多くの点を入れるためにはどのように打てばいいのか。	○指導上の留意点・支援★評価【観点】（方法） ○前時の結果と作戦ボードと見ながら、前時の試合の課題について振り返る。 ○チームでボールをどのようにつなぐと早くアウトにできるのかを意識させてキャッチボールをする。 ○バッティングでは、打つ方向や場所を意識して取組ませる。 ○攻撃や守備の上達につながるような声掛けをチーム内でできるよう、アドバイスをし合って取組むよう促す。 ○ルールを確認して、ゲームを行う。 ○攻撃時に、相手のチームからできるだけ多く得点するためにはどうしたらいいのか、また、守備時に、得点をできるだけとられないようにするにはどうしたらよいかを考えながら作戦を立てるように促す。 ★考えた作戦を仲間に伝えて取組んでいる。（思考力・判断力・表現力等） ○ゲーム①を振り返り、作戦で上手くいったことと上手くいかなかったことを確認して、ゲーム②につなげられるよう促す。 ○チームの作戦で上手くいったことを出し合い、作戦の遂行

		に向けて自分が意識して取り組んだことを紹介する。 また、相手チームのよかったことなども取り上げる。
--	--	---